



# 和知小だより



《学校の教育目標》 心豊かでたくましい実践力をもつ子

平成29年8月29日

## 失敗体験が自らを「きたえる」

校長 加藤 辰司

長い夏休みが終わりました。子どもたちは、夏休み中に大きな事故や病気になるということもなく、元気いっぱい学校に登校してくれてきたことを本当にうれしく思っています。

さて、2学期は、1年の中でも最も長く、そして最も多くの行事がある学期でもあります。その代表的なものが、9月25日に行う運動会です。

運動会は、演技・応援を除いて、必ず勝ち負けを決める行事です。そして、どの子ども自分の、そして自分たちの団の勝ちをめざして努力をするわけです。しかし、当然ですが勝負である以上、全員が勝つことはあり得ません。つまり誰かが必ず負けることを経験する行事でもあります。そこで私たちは、運動会の意義を次のようにとらえています。まず、勝つことで



- 勝つために努力をし、その努力が報われたことへの満足感を得ることと同時に自分自身への自信を持つこと。
- その勝ちのために支えてくれた仲間や周りの人への感謝の思いを持つこと。
- 勝った仲間に対して貢献することができたことを自らの喜びとし、これからも仲間のためにがんばろうという思いを持つこと(これは、本年度大切にしているパッテロースピリッツでもあります)。

ということが得られます。次に負けることによっても次のようなことが得られます。

- 努力をしたにもかかわらず負けたことを悔しがる経験ができること。
- その悔しさを自分の中で処理することができる力をつけること。
- 負けた悔しさを抑えながら、勝った仲間に対して素直に祝福することができること。
- 負けた悔しさをバネに次の目標に向かってがんばっていこうという思いを持つこと。

私たちが生きていく中で、(もちろんすべてが勝ち負けだけで判断されることばかりではありませんが)負けに似た挫折や失敗を、数多く経験します。同じように子どもたちも、これから様々な失敗や挫折体験をすることになります。そのとき、それにくじけずに自分の夢や目標に向かって立ち上がり、歩み続ける力をつける上で、学校は絶好の場所であるにとらえています。そして、運動会をはじめとして様々な行事がある2学期は、その力をつける大きなチャンスであると考えています。挫折を力に変えるには、それを乗り越えたという経験、つまり「成功体験」が必要となります。子どもたちを「失敗体験」を通して「きたえる」ためにも、保護者の皆様の温かいご支援をよろしくお願いいたします。